

岡嶋明選

特選

一席 檢皮打つ音が音追ふ小春かな
 二席 通り過ぎ確かめ戻る帰り花
 三席 落葉搔ぐるりと巡る地藏堂

宇佐 松本 公節
 宇佐 久保 英代
 別府 堤 節子

入選

ゆく秋や会ひたき人は遠く住む
 露天風呂独り占めする冬銀河
 ふるゝ穂の重たき畦を戻りけり
 初鴨やここはまほろば神の池

神奈川 野村 香代子
 宇佐 後藤 明彦
 大分 高柳 和弘
 大分 古屋仲 くに子

家計簿を付けて一年去年今年
 寒造り女杜氏は四代目
 家並に柿を吊して米どころ
 呉橋や青丹写して秋の水
 何気ない景色も今朝の初御空
 神々の御慶を交わす御許山
 奥津城へつらつら椿をんな坂
 枯蠅螂なほ現役の面構へ
 穠田の安らぐ彩の里曲かな
 小気味よき槌音宮の年用意
 水草の揺らぎに任す浮寝鳥
 天に星地に電飾の十二月
 コンビニの湯気に誘はれおでん買ふ
 冬耕や土くれ砕け草解け
 円墳のぽつんと浮ぶ刈田中
 マイク越し大音響の噓かな

宇佐 入学 ひさみ
 大分 佐藤 一男
 宇佐 樋口 通子
 大分 内田 興紀
 宇佐 原井 香代子
 国東 吾亦紅
 大分 目原 千鳥
 別府 甲斐 梶朗
 豊後高田 大波多 美妃
 宇佐 今村 七栄
 宇佐 本多 加代子
 宇佐 奥野 律子
 宇佐 永松 市夫
 宇佐 永松 悦子
 宇佐 田中 ひろこ
 大分 今村 悦子

高柳 和弘 選

特選

一席 木の実降る杜へ雅楽のひびきけり
 二席 蔦紅葉榮華偲ぼる礎石かな
 三席 宮の木々凜然として春を待つ

宇佐 河野 二三華
 宇佐 佐々木 里枝
 宇佐 蘆田 紀子

入選

御降の大草原を潤すなり
 拍手に今年こそはと初句会
 大前に日の匂ひあり小六月
 挨拶はお日柄も良く菊花展

別府 吉弘 好孝
 国東 吾亦紅
 宇佐 林田 宏
 宇佐 入学 ひさみ

賀状書く被災地の姉案じつつ
 コンビニの湯気に誘はれおでん買ふ
 国東の先の赤みて初日影
 音も無く盆地をつつむ夕時雨
 巨石墳古への想ひや天高し
 貧しくも数の子あれば足る祝
 奥宮の初日を拝む三世代

宇佐 久保 英代
 宇佐 永松 市夫
 東京 遠藤 玲奈
 神奈川 野村 香代子
 宇佐 溝口 独妙
 宇佐 江口 美佐子
 宇佐 本多 直代

こがらし
 風の宇佐宮治癒を願ふ絵馬
 悠久の杜を明るく冬紅葉
 長生きのお守り受くる小六月
 冬ぬくし太古のままの神の石
 涸川の浅瀬に遊ぶ鳥の群
 侘助や白無垢姿磴上る
 自家産の野菜が占めて歳暮便
 露の世の釈迦に問ひもし死生観
 京に住み十夜粥うけしこと遠く

宇佐 後藤 明彦
 宇佐 奥野 律子
 宇佐 佐藤 公代
 宇佐 永松 悦子
 宇佐 本多 加代子
 大分 目原 千鳥
 豊後大野 小山 佐知子
 宇佐 尾崎 陽子
 大分 古屋仲 くに子

溝口独妙選

特選

一席 神名備の奥へと誘ふ秋の声
 二席 小春日や竹のぼつくり作る児ら
 三席 新札よりも美しき柿落葉

別府 甲斐 梶朗
 別府 堀越 和子
 大分 目原 千鳥

入選

ゆく秋や会ひたき人は遠く住む
 露天風呂独り占めする冬銀河
 麦飯に黄身盛り上がる寒卵
 まるやかな水底の石下り鮎

神奈川 野村 香代子
 宇佐 後藤 明彦
 宇佐 岡嶋 あけし
 大分 高柳 和弘

初鴨やここはまほろば神の池
 スケールの大きな橋へ紅葉狩
 寒造り女杜氏は四代目
 数撃てど負傷者おらず雪合戦
 母のこと孫のこと唯根深汁
 寿や初松籟を聞く寝覚め
 懐かしく千歳飴買ふ八十路かな
 木枯らしにさわさわ答ふ御神木
 涸川の浅瀬に遊ぶ鳥の群
 世の無常聞法の座や親鸞忌
 隠沼の初鴨数多岸に寄る
 機能を説きて勧むる菓喰
 明かりつき聖樹となりし庭の木々
 賀状書く被災地の姉案じつつ
 周防灘ひとつ飛びして神の旅
 マイク越し大音響の噓かな

大分 古屋仲 くに子
 宇佐 入学 ひさみ
 大分 佐藤 一男
 岐阜 石田 賢吾
 豊後大野 小山 佐知子
 大阪 富永 武司
 白杵 芋岡 勝一
 宇佐 今村 七栄
 宇佐 本多 加代子
 宇佐 奥野 律子
 宇佐 佐々木 里枝
 宇佐 永松 市夫
 宇佐 永松 悦子
 宇佐 久保 英代
 宇佐 河野 二三華
 大分 今村 悦子

松本公節選

特選

一席 露ひとつ葉先しならせ光りけり
 二席 大前に日の匂ひあり小六月
 三席 茶の花の色あせ日和もち直す

宇佐 河野 二三華
 宇佐 林田 宏
 大分 高柳 和弘

入選

もてなしの一椀かぼす香り立つ
 神木の命に触るる冬ぬくし
 自家産の野菜が占めて歳暮便
 つぎつぎと落葉踏む音朝参り

神奈川 野村 香代子
 宇佐 佐藤 公代
 豊後大野 小山 佐知子
 臼杵 芋岡 勝一

吳橋や青丹写して秋の水
 神々の御慶を交わす御許山
 侘助や白無垢姿磴上る
 右に父左に母の七五三
 神名備の奥へと誘ふ秋の声
 丹の橋の影の途切れや川涸るる
 木枯らしにさわさわ答ふ御神木
 涸川の浅瀬に遊ぶ鳥の群
 隠沼の初鴨数多岸に寄る
 古老から昔の知恵を聞く焚火
 祓所に笙の音響く小春かな
 冬の鳥身じろぎもせず神の池
 通り過ぎ確かめ戻る帰り花
 鯉ゆるりゆるり動いて小春かな
 松手入れたへて神苑かるやかに
 山褰を分けて明暗片しぐれ

大分 内田 興紀
 国東 吾亦紅
 大分 目原 千鳥
 別府 甲斐 梶朗
 別府 甲斐 梶朗
 豊後高田 大波多 美妃
 宇佐 今村 七栄
 宇佐 本多 加代子
 宇佐 佐々木 里枝
 宇佐 永松 市夫
 宇佐 永松 悦子
 宇佐 永松 悦子
 宇佐 久保 英代
 宇佐 久保 英代
 宇佐 田中 ひろこ
 宇佐 吉武 康子